

## 実践記録（小3・学活）

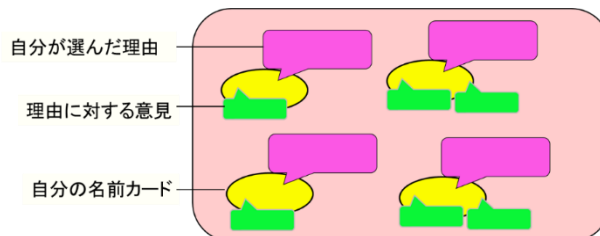
### 1 ねらい

付箋紙を使い、対話的な学びとしての意見交流を行うことによって、新たな意見を自分の考えに取り入れ、自分の考えを深めることができるようにする。

### 2 手立て

- ① 立場ごとに分けたホワイトボードに自分の名札を貼る。
- ② その立場を選んだ理由を付箋紙に書いて名札に貼る。
- ③ 立場が異なる友達の意見を読んで考えたことを付箋紙に書いて、友達の名札に貼り付ける。

この①～③の活動を繰り返すことで、意見交流を行う。



【ホワイトボードを使った意見交流のイメージ】

### 3 実践の様子

始めに「大切な人と話をしている途中で、スマホに電話が掛かってきたが、出るか、出ないか」という課題を提示した。すると、子どもたちの中から「出るよ。」や「出ないよ。」などの意見が出た。そこで、「電話に出る」か「電話に出ない」か、どちらかの立場を子どもたちに選ばせ、ワークシートにその理由を記述させた。

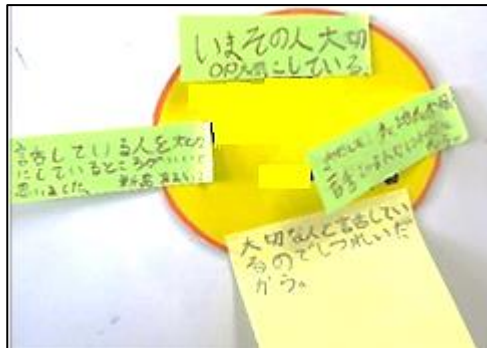


【意見を読んでいる児童の様子】

次に、2台のホワイトボードを「電話に出る」「電話に出ない」に分け、自分が選んだ方のホワイトボードに名札を貼らせ、その上に理由が書かれた付箋紙を貼らせた。すると「〇〇さんはぼくと違う立場だね。」といった声が聞かれた。

さらに、友達の意見を読み、それに対する自分の意見も付箋紙に書いて貼る活動を行った。どちらの立場の人に対しても意見を書いて届けようと、生き生きと参加する児童の姿が多く見られた。

最後にワークシートに意見交流後の自分の考えを記述させると、自分の意見の中に、異なる立場の意見も組み込んだ意見が多く見られた。



【意見が書かれた名前カード】

### 4 成果と課題

- ホワイトボードを立場によって分けたことで、だれの意見が、どの立場なのか明確になり、友達の意見を積極的に知りたいと思う意欲につながった。
- 意見交流が盛んになったことで、多くの考えにふれることができ、自分の考えが深まった。
- 学級全体で立場を大きく分け交流をしたので、子どもが途中で立場を変えることができなかった。
- 付箋紙を通じた間接的な交流に留まり、友達の意見に直接質問をするといった、直接的な意見交流まで至らなかった。小グループから徐々に人数を増やしていったり、途中で立場を変えることもよいことにしたりすることのような、意見交流を行うときの工夫が必要だと感じた。